

# 建築部門



## ■神戸メリケンパークオリエンタルホテル アクアホール (神戸市中央区)



■水館の上にガラスの箱が浮かくという構成で、透明感があり、周囲の景観と溶け込んでいる。また、瞬時に透明・不透明が切り替わる瞬間調光ガラスや、さまざまな照明・噴水が駆使されており、デザインが独創的である。

■メリケンパークに行む人々の目を楽しませ、昼間のみならず夜間の景観形成にも寄与している。

## ■生野町 猪野々住宅 (生野町)



■外観は、従来の鉱山住宅の雰囲気を残すためかわらぶきで、外壁は板張りとなっている。高齢者への対応としては、2階部分に上がるスロープが設けられ、緊急通報の設置や段差のない住宅となっている。

■長屋住宅の良きコミュニティを継承するため、共用部分の配置にも配慮がされている。

## ■波賀町 庁舎 (波賀町)



■森林の文化・木の文化を守り、木の良さを最大限に取り入れた木造庁舎である。

■山里の民家を連想させる越屋根のある大屋根、4本の丸太の大黒柱をもつ木造在来工法による建物であり、木のぬくもり、やさしさを生かしている。

■ハートビル法による施設整備基準を満たすことはもちろんのこと、災害拠点として、免震装置・耐震性貯水槽などを備えている。

## ■宝塚市立 小浜工房館 (宝塚市)



■芝居小屋風の外観により歴史の道をイメージさせ、美装した道路とも調和している。また、白壁の土蔵と周辺の樹木とが調和し、駐車場には石目地に芝生を埋めて緑化をしている。

■小浜地域が大工町であった歴史を踏まえ工房活動を行う施設として、街なみ景観形成活動推進の拠点施設として、注目されている。

## ■芦屋市 若宮町住宅1号~5号 (芦屋市)



■周辺の戸建て住宅との調和を図るために、分節・分棟とし、4階建てを基本に、一部2階・3階・5階建てと高さを抑え、豊富な色使いにより集合住宅に見えないように配慮している。

■配置からファサードや色彩計画まで地元まちづくり協議会と協議を重ね、震災復興住環境整備事業により完成したヒューマンな建物の集合体である。

## ■あけのべドーム 森の館 (大屋町)



■地元・大屋町産の木材を使用した木造建築物であり、地域林業に不可欠な地元産材利用促進の原動力となっている。

■建築基準法の改正により可能となった、木造の耐火建築物である。

■青少年の野外活動施設である「あけのべ自然学校」の一部として、都市と農山村の交流施設として大屋町の魅力づくりに貢献している。

## ■広渡廃寺ガイダンスホール (小野市)



■7世紀末頃に建立された古代寺院跡のガイダンス施設である。

■配置が史跡の北西に位置し、史跡より敷地が低い場所であることもあり、史跡側からの景観ではガイダンス施設が必要以上に強調されないように配慮されている。施設自体は小さいながらも、伝統的なイメージを損なわないよう配慮しながら斬新さも採り入れている。

## ■小野市 匠台公園体育館 小野アクト (小野市)



■施設は、なだらかな丘をコンセプトに、施設敷地の匠台公園と一体的に計画されている。直径54.7mの円の中に、小体育館が全体のボリュームから突出しないように1階部分はドライエリアを挟んで芝生の丘の下に埋め、ランニングコースのある公園とともに、外部景観や魅力あるまちづくりに寄与している。

## ■南淡町文化体育館“元気の森ホール” (南淡町)



■周辺の山並みと敷地周辺に生息する希少種のハネビロエゾトンボ、オオエゾトンボの羽の形をイメージした屋根形状とし、周辺環境と調和している。

■屋根のかわらは、今までの淡路がわらの既成概念にとらわれない新しい技術や使い方を試みることで、よりグローバルな視点に立った地域性を表現するとともに、今後の淡路がわらの新しい展開、地場産業の活性化つなげることが期待される。

## ■道の駅 あゆの里 矢田川 (村岡町)



■本施設は、道の駅「あゆの里 矢田川」の主要建物であるが、昔懐かしい“心のふるさと”を演出している。

■農村の伝統的な木造家屋を現代風にアレンジし、内部は太いはりとした高い天井に露出させ、囲炉裏が3基設置されている。

■和室から眺める清流矢田川と背景の広葉樹林が利用者に安らぎを与えている。

## ■姫路赤十字病院 (姫路市)



■エントランスプラザは、道路と建物の間にケヤキ並木の広場を設け、まちの一部として広く開放され、建物ボリュームからくる威圧感を低減させている。また、歩車分離を実現し、公共歩道より歩行者を建物に安全に誘導している。

■敷地内に水と緑で構成した「癒しの庭」を組み入れ、生命の息吹といやしを感じさせる、落ち着いた空間として一般に開放している。